

第5回協働推進委員会記録

日時	平成23年3月17日(木) 18:30～20:00
会場	豊明市役所東館3階政策審議室
出席者	石川礼子、大島逸夫、木下三枝子、小池田忠、酒井克俊、都築和男、平松鋼一、三島知斗世 矢澤久子、(以上10名) 豊明市 : 市民協働課長、市民協働課長補佐、協働推進係職員(以上4名)

議 事

1. あいさつ

事務局より、委員長が体調不良のため欠席、代理で副委員長の平松委員が議事進行を進めることが説明された。

2. 前回のふりかえり

3. 報告事項

(1) 協働モデル事業懇談会実施について

資料1に基づき、事務局より、2月8～10日の3日間協働モデル事業懇談会が実施され、各担当課より協働モデル事業の進捗状況報告と、協働推進委員からのアドバイス、及び各日程2団体ずつ市民活動団体からの協働事業の事例報告が行われた。どのようによりよい協働関係を築くことができるかについて考えたり、市民活動団体の志高い話を聞いて励みを得るよい機会となったことが報告された。

(3) 3月議会一般質問について

3月議会において、協働施策関連では、下記の2件の質問があったことが報告された。

地域社会活動推進条例施行1年を迎え今後の施策展開は

福祉、環境、教育などのテーマ型の市民活動の必要性について市はどのように考えているのか。

4. 協議事項

(1) 地域社会活動活性化プログラムについて

修正の経緯について

事務局より、1月下旬から2月上旬にかけて、計2回市長と区長の数名との懇談会が実施されたことが報告された。懇談会では、区交付金に対するご意見を各区長からいただき、平成23年度中に区交付金及び地域への各種補助金の一括交付金を検討し、24年度から新制度をスタートさせるという意見でまとまった。この懇談会により、第4回協働推進委員会で協議したスケジュールより前倒しとなったことが報告された。

先進地視察について

資料2、3に基づき、事務局より長野市、知多市の先進地視察の報告がなされた。続いて平松

委員より、知多市のコミュニティについて追加説明がなされた。

《以下委員の質問、発言》

- * 知多市は新しく開発された団地がコミュニティを作ったのが始まりで、旧来からの地区はそれについていく形でコミュニティが設立された。
- * 知多市の場合は、補助金の担当課は財政課であり、補助金の見直しは毎年のテーマであった。その延長線上に地域の一括補助金があった。財政主導で行ったため、進めやすかったが、豊明市の場合は状況が違うのでかなり困難な作業になると思う。
- * 知多市の場合は、補助金の担当課は財政課であり、補助金の見直しは毎年のテーマであった。その延長線上に地域の一括補助金があった。
- * 長野市の例で、住民自治協議会を設立したことによって、町内会自治会との軋轢はなかったのか。三重県名張市で住民自治協議会を設立したときは、住民自治協議会の長と自治会長が別の人だったため、うまくいかず、同じ人にするようになってからは落ち着いたという話を聞いた。

長野市の職員の話では、長野市も当初住民自治協議会を設立については、今の組織にさらにもう一層組織ができるということで、負担が増えると大変な反対にあった。それが転機となって、既存の分野ごとに作った連合組織を廃止し、補助金を住民自治協議会へまとめるという施策につながったということだった。豊明市の場合は、お金の話から入っているが、一括交付金によってどういう地域としていきたいのかという理念をもって行う必要があると感じた。(事務局)

地域社会活動活性化プログラム、地域一括交付金について

資料 4、5 に基づき、事務局より説明がなされた。地域活性化プログラムについては、市長区長懇談会の結果若干スケジュールが前倒しになったこと、国の施策の動きを反映させたものとなったことが説明された。

(2)その他

委員の任期が平成 23 年度で満了となるため、次年度の委員会は新しい委員で行う。第 1 回委員会は 5 月下旬を予定している。